子載後歌集

下

千載和歌集巻第十一

戀前一

堀川院乃御時百首の前にて月つかはる時

初戀の心を読る　源俊頼朝臣

雅清の藻に埋まるゝ玉かしはなれたる人を思ふや

二条太皇太后宮肥後

西にしらぬ人をたゞしめて悪ばかりおりふ石をたゞしるへをよ

前斎宮河内

ほわかしや思ふ心乃ふかきにこれそ捨れたとし尤せまし迎

檜山網云後忠中将に侍ける時宮合し侍ける

初戀の心をよめる　後二条開白家筑前

なまこわ浅しおぬるゝ袂かなみたこそ悪れしるへなりけり

女につかはしける　藤原なりの忠とし

藻くしけ火乃破月をふかふさわ丹かれのなりしに思ひそめてさ

題しらず　捕仁親王

いふをしおもひを人にしらめなりしに出しとなふ浅

徳大寺の右のおほいまうし北君

一ひ見し人を雅にしらせのうしなる遠もしらぬか

中院右大臣

浅めとも洞の袖のハイわれて悪おもへにしらぬるこれ

前大納言公任

なかれいかなる海の鴻乃今れやわかと成越し源かなる
毎乃ふる日志のひきとゝ人にはかりしなる

堀川右大臣

今れ此物おもふ比乃袖みまき毎と洞もまかれさ
擅中納言こしあゝ家にてなかる右さつ
悪しとつゝ心を演作なる

源俊頼朝臣

あしまわれ此と物を思ふ事なかる右や野の霧なる
悪の所とてよめる

源明賢朝臣

歎かまわまわ志せなめつるものとも思ふかわいふれ
百首の奇演作なる時悲乃奇とてよめ侍
なる

右大臣

今れぬ末れ紫の下乃埋乃おもふ心をかなかなるさんや
新しらす

公我国大臣

悪しともいへぬ末ぬるゝ袂かなきゝ詠を志るはなうこなりけり

従三位頼政

なとへともいへて思ふのまわ衣乞れ申しみそれぬるかね

非我法師

かしめて乃思ふ心を出しこれ思ひつゝ心ふ出しこれ

藤原清輔朝臣

かふもめれとも無く火れてこれ上ハつまなれ我力なわ
奇合し侍ける時無ふ悪れたるとも絶る

刑部卿頼輔

悪しかな世乃ちかれよよひなきこそ無ふまでも人にしたれ

弘昭法師

念れ無涙乃川の名にやいてて乃山の苔ハ下ある
鄙しらす

演人しらし

侍ふをしみりなる京ふつひせわ弥よのこなけこ志る人のなさ
恋乃百首ハ奇演侍ける時宮霧恋といへる也

とよ絶る

賀茂重保

つれもなき人乃心やあふ坂の関路へこつる霧なるらむ
悪れ奇とて演ふ

藤原清輔朝臣

海川うなゐ鳥と生わぬれ人ハ今ハ子なれ
二条院乃ハ時うゐのとれことも百首の奇なる
月つわる時ある

源乃みちうし朝臣

我恋ハ私ふ咲こ乃雄風乃ととふハ無て別ハ悲しこと
横川の姫りしなる山寺にこもわぬる時つよ
ろしきましまれ侍ふれもよみくはうしる

仁昭法師

世哉つとふもおもひしにかくおもやなくへ人そこほしかは

題しらす　花園左大臣

あさなわたり人のおもはんとつてん人めとえぬりけの俺めさ

大宰大弐重家

みるほともなくてすきにし君故にはつかなる月よりゆく(?)恋やかなしき

君こふるみのなけきにもたえぬへし月日もおなしつきせぬ

藤中納言伊房

きさ井のうへよりもゆきてわかるる雲

引とききの世語りともみえくたまゐる

二条院讃岐

おほかたによひそめぬるものから松吹風におとろかぬかた

百首の哥よみ侍る時恋の哥

式子内親王

ちかひしや枕さへぬらす袖よりも小夜風かなしち

百首哥よみ侍ける時恋乃ちからそへ侍

寂蓮

右のおほいまうちきみ

さればかく川涙あまる人恋もちり(?)海ならぬなかもさよ

題しらす

刑部卿頼輔

なのらへてつらさをかこつやとはかなき母も見しりわそ

源有房

源仲光

藤原惟規

賢智法師

賀茂宣保

津守國光

大中臣清父

源季員

祐盛法師

大中臣宣雅

祝部宿禰成仲

君こゝろ洞時雨と降ぬれば志れ乃山も色付にけり

二条院前皇后文乃陰

いふをむ思ふ乃山の下ゑ葉時雨ゆるまゝに色のまさるを

賀茂重延

津しと神に時雨ぬれて色のかはりひ色のたしめなる

按政右大臣の時乃百首の字ゑとも思惑の心を

演作なる

渡三位頼政

わさ雨しやおさ雨ゆる神の下くる洞の末を人やこ川らん

皇嘉門院別當

思の禰ゑ袂ハ色に出にけり志ら絲にて雨ぬれ洞ゑ

とんなゝ乃なかゝ名ゑつゝし恨をく侍わられて

けりしなる

左兵衛隆房

松しくかさ○て志ぬれぬ其衣さてもかすへ乃ゑ名を

の面し

よりん人志ら須

なれ候もしきやしきゆゑ衣ゑ其ちすとも見ゆゑ

恋ゑ前とて演作なる

大納言宗家

人目をつゝむと思ふにまとれぬく神に時まるに渡なわなる

右京大夫季能

けに思ふにつゝけ出てしかゝ思ふにあひみぬさ袂の別ゑ

法眼実快

こゝ我人にこそ見ぬるかな君にはうしろやとおもふ袖の雪を

藤原伊綱

[illegible]

桜政右大臣の時家の前合に悪の前こゝ見

よめる

菅原季綱朝臣

思ひ出ぬるそ風慰とあわるまにあひみそ[illegible]ハ

[illegible]家に百首前の演侍ける時和悪の心を

[illegible]

皇太后宮大夫後成

[illegible]

[illegible]

いかなをし室の屋しきに宿をかる

悪の心ふかきを元にまりえん

千載和歌集巻第十二

戀奇二

堀川院乃御時百首の奇をわかる時戀の

心をよこ侍ける　大納言公実

おもひわまわ人にとはしやあ無衛門むすめ[illegible]袖ぬるを

設しらす　花園左大臣

たりなくも人に心を[illegible]ひ[illegible]ぬ[illegible]ひ[illegible]おもひ袖ぬ

二条太曽太后宮大貳

戀そめし人にかくしつつ[illegible]きれ我洞しとも[illegible]

白川院三条殿にはなしまし[illegible]時あのことも

戀の奇に讀侍ける　にしよめる

前中納言雅通

かりわかる洞と人も見るとかわ志をとし袖に持たて[illegible]

擯中納言後忠家に戀乃十首の讀侍ける時

いのれともおもひ[illegible]戀といへる心を

源俊頼朝臣

うかわ[illegible]人を初衛の山おつよそ[illegible]れ[illegible]ぬ物を

おもひ十首乃中に地に戀といへる心をよめる

修理大夫顕季

う[illegible]しく[illegible]乃心を神[illegible]

陰部川製

恋僕かきをの河にてしれしきたれかの神はぬまてしれかも

右のたかなまた代君

新しらす

新まくれ霧をさ散らけるめりし磯の神さ不動くぬまと

摂大納言実国

恋ひたるゝ世をれあさや我なむじさくはしるめをかつらも弁

摂大納言実家

しさくは逢とんつゝは獣まむさ無つゝけしも言なぬ

右兵衛督教家

いかんりわ花ふを志わてつかれ涙乃色をみをしや

後恵法師

逢志なし命を雑にゆつるわを祝くつまなかの乃をてしれ

法三位頼政

を祝なぬ涙乃川のもやきせいあふをわ我しるしれ

菊原朝方

我恋は尋ぬるひとなかわをわうしやもしきをなしれ毎

為国法師

為ひとけ志なし別乃なり祝に命をこゝぬあふをとかな

賀茂重保

雑事我子孫ら小野さわなりわ世ハ我にわを海に出てしまと

百首奇をもとめる時慈乃寄とてよめる

菊參議教長

いかなれ慈法は堂き物なれは是を遊けとてもおもせなんとなく物中かなしきるんなよな乃きしけ思ひぬ

命つきれはとめる

三のみこれ家乃越後

なれは後つらかしまはよく梅まへなさ若ひとの数なるぬか

大納言三家みちか将ゝ侍ゝる時名気ことに侍わるとなりくハ減りなさもやとひつゝ

もしてそれも憐くはかりし計なる

法性寺入道前太政大臣家奉河

あひこむ是ひなとわそ白浪気をむ名ゝにわけさけを

後三条内大臣家に奇合し侍ゝる時慈の

奇とてよめる

慈しなむ男ハおしかすあふとしてこれかつんかとまてこれかつんかそわ

贈左大臣長実ハ条ハ家にて慈のまゝ法をよめる

左京大夫敬輔

いまハさもあひこむまてかくこそ命こなりんおとのもあなる

新しらす

平忠盛朝臣

一ちこなひくもかれ煙かなけまなかなの命かしらまなりも

藤原通理

我道へ乃洞とそらをと我とみてあれなるべき袖乃上の和
賀茂政平
わふとはかくかくれてつまとをなさん乃名や岩木ならむ
源光行
乗しまむ洞のもてや浚川梅のまなかれとなりんとすむ
宮石乗とつる心を　二条院讃岐
わの袖に塩干ぬんとぬ沖の石の人をしてしる孫かくてすなる
民部の成範
新しらす
かくわかる親何のむくひをとしるへ人あらはとも海に袖を
太宰大貳重家

乗しまむと我をもなかる浚川おふせかりとはきこゆぬ袖ゆへ
新部の範兼
いとかなくわかる川の瀬をしらはあるとも隔てを清んとそ思
石清水乃奇合とて人々積分なる時宮松乗
とする心を積分なる　檜中納言雅房
ちかれかんぱくまつ遠をとてくいしとしらぬあふの松原
乗の奇とてよめる　東蓮法師
おひしの夏こ小みをてぬれしあるとも鳥れ書こそ知れ
後恵法師
夜とひて物思ふ我的やらぬ国乃ひまさへつれなかわかり

後よきかで袖も朝霧にぬるゝだけとは思ひもしらぬらん
藤原是忠
恋種は人さへしらぬ今こそはおきそめしかと
藤原親盛
なみだくむ心の中にしるすみも流れてなみだ川をれ
静縁法師
世の中の人なき心をかるゝもこゝろなきは知れとも行あし
むすばれぬくしすてぬれよをし人に津のら
くれ
大江維順がむすめ
恋ひ死なん後は思ひ出もなき中に思ひもかけじ
暁風催恋といへる心をよめる
藤原範家朝臣
世とゝもにつれなき人を恋わびて秋の夕風
知らず
源師光
恋しさをいつかはともおもひしを身は数ならぬ人ぞつれなき
権大納言実国
恋は我が恋を人に思ひ出さるゝつきもなきをと
藤原家通
ひとすぢに恨みもせず先の世のむくいはこそ
なりひらの心をひきてかゝる旅をしてまで待ち

かわてそれしらにのかよつらまゐしけるか

藤原公衡朝臣

[illegible]

法住寺殿乃殿上の奇合に臨御遠幼遠と

いつくんをよめる

檜中納言通親

いましはしこそ[illegible]

菅原威方朝臣

[illegible]

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

千載和歌集巻第十三

戀奇三

[illegible]

藤原実方朝臣

[illegible]

相模

[illegible]

藤原長能

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我又の日心わかさ海なりし人乃つひ侍られ給ふ
なし事なり
小大君
七夕なかしつと思ひしわかふと我ちれなるなる君ぬ立よりなる
ひとこ乃ゝ身太后宮まさいわて侍わきなる
弁ぬめれこのもう海乃こしれつ身をまるを浦まへ
なる硯と引ゝせくそれこしまかなつ事侍ゝ
宇治前太政大臣
うゝめしやむしなれ身ゝ下ひとのこきぬや何の心なるし
返し
弁乃めれこ
さるひとゝ人乃ゝ意るふこくなれたるつまとかしとなるし

堀川院乃御時百首ぬ奇をわくる時悪さん
心とゝ使ん歌
大納言公実
独ぬる我まて志わぬ池のまたかなぬとしぬ思ふ言葉を
中納言師時
意とのこ志川乃とゝまたる我ハわつて年ぬ思ひ侍わ
源俊頼朝臣
あまてかれ侍つまれとめれかやしらしのひてもとゝ
中院乃右大臣申将に侍ゝる時奇合し侍
きるまとめる
修理大夫顕季
世とゝとゝにしり方もなれ心なる悪ハ物ゝ

接桑の心を後ろ

僧都覚雅

旅行なるに此色のきらくれ鎌かもえようかとさゝれ
堀川院乃所内敷書乃前をうへのおれこゝりは
とせさ後ふくゝ前とじ母房乃りとよ御かえ
しきらと大納言云実ハ康資の母ようか
なしなる後又長ゆとれ内侍よも御ら給
ときてそ○見たる前を通りて御きれも御か
なし計ゆ

大納言云実

なれ其桑を御物なれ蔵乃君をそ思ふ御見し
中将よ御ゝる時前合し侍ゝるよ悪れ前

とてら絶ゝる

檀中納言後忠

我悪ハおまれなるも小鄙まつかたく時なるは浪乃下草
法性寺入道内大臣よ侍きる時乃前合ゝ詠ゝ
うしなふ悪とゝ思ふ心とゝめ事

荻原時昌

なほさわよ三輪ハ松とゝ○蓋て詠ぬる時いあぬ君
法住寺殿にて五月乃御供花の時とのこし
前後侍ゝるよ契後湯悪とゝ思ふ心とゝ侍
ゝる

皇太后宮大夫後藤

塩めこし野鳥ハ芝家ゝ思ふしゝてなるしとゝ思ふ

題しらず

法性寺入道前太政大臣

冬乃日我妻とわかくなすゆ遂はくすむ子わかり

位乃はとなる皇太后宮たしめてやいわ給へ給ひ

後の朝まつらしたる　院御制長

前世を契そめつる志ゆしあるにしかしかしかし

おなしは時思ひくたしめてまつのかわて仰

なる人に朝まつわてとれかとすされさせ給ふて

とあわて當ふ人なる接ふ川かたはらされもる

上朝こんぬつさふ物無ひし逢我とさしうは恨かしかし

花園左大臣よつかんしあ仰

待賢門院加賀

百首可奉わらる時遊乃心をとる兄母

前奉議教長

遊さ前世を限りと申しかとさてしかしおりひそ給わ

左京大夫敬輝

我前くもとさし人にかつりと袖の志川くをとるへなる

待賢門院のかわのこの

なりらむ仙も志ゆ黒髪の龍てけさは物をとうおりへ

上西門院兵衛

とひ乃まゝも待よ心やなくさむとつまさむとて不軽めとなん

侍賢門院のおき

おそなれ花なれくさむと言ふ雨かなくすきもおひ立てなし

後朝恋乃心を續る　従三位軽政

人ハつきおもぬ夜床よそ絶つる我ぞよ我とまゝ川らめ

思ひあるまゝかかりて在明乃月に夜ふく

ゆめてつらしなる　権中納言通親

なとへてへ座さわ近ち明乃月よりおもに出しおくを

接政右大臣乃時ハ家の寄合に接宿逢恋と

いつ心をとゝめる　皇嘉門院別当

雅波ハ乃おれハ祢の一夜接へ身をつくしても恋深さ

初逢恋ハ心を續る　藤原公衡朝臣

恋くておもかれさをつくしき袖ハ洞り朽もてよそわ

藤原隆信朝臣

君やすれおもしつさ雅なれハ恨くるきへとなるやき

墓中契恋とつる心を成よめる

参議後冥

すかさよ祢覚の床に無ぬさも望しと成つるわせハ

中納言国信志乃ひく物ゆて後つかし

なる

前兵院新肥前

あつまやの風わきさしの梢にも秋のすゑ葉にそよくなるらん
　寄枕露といへる心を読侍ける
　　　久我内大臣
つゆをさへ枕は露をおもふらんみさからぬ袖にみけれ共
　夜風寒の心をよめる　権中納言雅頼
夜風にたえぬ蛍も鳴蝉もいつれの物とやはいふ
　題しらす　　左大将
羽きて涸とへ今はむすふや杉も松原秋は
　百首哥よませ給ける時秋風の心をよめる
　　前参議親隆
秋来ぬと伊勢嶋や風わたるの袖にしほたれぬ秋は
　哥合し侍ける時よめる
　　　藤原清輔朝臣
秋はきぬ荻は秋を告わたる波よ雲は海をへてうらん
　　　　源昭法師
しらは涸に杉ねの衣は秋に人の身をまかせなき
　題しらす　　道因法師
おもひ侘てそ秋は我身の秋にしらぬは涸をまされ
　藤原仲実朝臣備中守にてくたりける時
くまくまにうかるとおもひすまかて

[illegible]

人よつかしかる　二条院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右大臣に侍かる時百首[illegible]侍かる時[illegible]

[illegible]　桜政前右大臣

[illegible]

[illegible]　皇太后宮大夫後成

[illegible]

千載和歌集巻第十四

慈哀四

[illegible]

和歌式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花山院御製

[illegible]

きるゑなりまつらしなる

小武部

思ひ出て誰とかへ乃我○[illegible]事ゝ[illegible]ある[illegible]
太宰帥敦兵のみこ中ゝ[illegible]侍ける[illegible]
かゝおりひ出てもの乃して侍ける[illegible]侍ける

和泉武部

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原実方朝臣

行乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

苅原基俊

[illegible]

藤原仲実朝臣

[illegible]
法性寺入道前太政大臣内大臣に侍ける[illegible]
乃家にて[illegible]

源雅光

吹風に並ちへぬ梅乃花よりもとうめかきは洞なれ
逢不逢恋といへる心をよりん侍をか

大納言俊通

わひみしといひ流すし所東北思ふとのたしまそ名
檀中納言俊忠中將に侍ける時所合し
侍ける恋乃所にそこそ給ける

伊与三位　茂宗敦兼朝臣母

恋俺て新と計うちなけく事とわかれなくさめそか
おなし家に十首の恋の所讀侍ける也
来ふ毎恋といへる心我よりん侍ける

檀中納言師時

あちかへ給人をも何ゝ恨まし恋しさをたにとうめさわせハ

茂恵三經

うつなく志川屋に生ふ玉こしけかわいのこきてゆゝ寂
あとて後乃かゝみといへる心を讀侍ける

公我内大臣

別くハ新しんなりわきる玉札を慰ちかわかなことをかせて
宗徳院に百首所をわきる時恋乃所とて
と給ける

我袖の洞やまハ乃海なりんかわいと人をしるあなけ連

前参議親隆

[illegible]

曾太后文太史俊成

[illegible]

侍賢門院安藝

[illegible]

[illegible]

百首の奇[illegible]

[illegible]

[illegible]

平実[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬議為通

[illegible]

刑部卿範兼

月影ハ入をいとふ人ゆゑに[illegible]めかくさきのやまのはの空

藤原為実

葛乃葉のうらみそかねし[illegible]の園のさくら心はまされさわかむ

寂信法師

志らさわき雲井の月のひかりにも秋のねやにや[illegible]

わすれぬるその夜の夢のさめぬれは[illegible]

空人法師

秋風の吹きくるよひハわすれつゝ[illegible]世をへて[illegible]

源仲綱

いさゝ我身を何と思ひけん[illegible]のこゝろ

家隆卿と云侍ける

二条院内侍参河

待わひてさへ秋も梅[illegible]風にたなひく[illegible]

無言にてよみける

讃岐

一筋にて思ひのほか[illegible]やかてこひの種わすれつゝ

百首哥よませ侍ける時遇不逢恋の心を

よみ侍ける

摂政前太政大臣

なかなかに[illegible]

左[illegible]不言恋といへる心を読侍ける

前中納言雅教

わかと風の中しもかれんらすは色をもかへしや梅の袖

梅香満袖といへる心を読侍ける

權中納言通房

うつりかは何とはなしにさむしろの衣のなこりの月も残れる袖

曙くれのかをとこそに小篠めきまるとも人のまくら

わすれてのくみかへんと申ける頃つる

よみ侍ける

右近中将忠良

逢ぬまやあやなやまとはのこゝろおもひとほしの関の戸

歌合し侍ける時恋のこゝろをよめる

俊恵法師

なけきのみまさる恋路の海のなかはまたそこしらぬわかれなれは

殷富門院大輔

見せはやなをしまのあまの袖たにもぬれにそぬれし色はかはらす

海路恋と云る心を読侍る

従三位頼政

出雲路のつのさしひつとよさに米こそ沖にこかれゆく

逢久恋といへる心を読侍る

藤原隆信朝臣

今はたゝむかしのみこそしのふ草花の盛しるもやしらなん

希會不後悉　菅原朝家朝臣

いつなれたなすれはせしめ中川にあはせ物乃しくなかりけん

桜政右大臣乃時百首の奇らすせ侍ける時

遇不逢悉をとめる　源仲綱

しらんなれさのゝ中川漸にしてなれたるは洞なれ

初踈後思悉とゝ心をとらせ給

二条院讃岐

今更に悉とゝ心をしれはれしこれも心乃かたるとおもへは

悉乃奇とてとめる　太皇太后宮小侍従

悉とめし心れ乃なかなれたおもひ人にしてしかりし

道因法師

伊勢湾や花しれ湾のあまたにしてゝ神ぬるもしは

遇不逢悉とゝ心を積る

後恵法師

おもひきやうかわしきも風の意を待ちしにて阿ふ

友夜悉とゝ心を積る

唐衣とせてハ孫　長乃夜ハ夏にもあらて人にしれ

戀乃奇とて漢侍ける　法印靜賢

為れしき我おもひきてや夜にしれはあひしめさまのつるさ

桜政右大臣の時家乃奇合に悉れ心をよめる

千載和歌集巻第十五

慈奇文

[illegible]

相模

うくるねよ[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

馬内侍

[illegible]

大貳三位

[illegible]

相模

まれ人をうらめとやせむ菓蔵こあやしき鳥蛾の飛と
女乃ふかまよ山よしつら海りきとしつゝ侍り
々れつゝしける　大納言女の梅
さわも梅のかゝ所を訪見ハ我心よそ人ハつゝ寿
時く物中きる女のりとよ文を津うしよ
きる紙らもあらしとてうゐして侍々れえ
つゝらしけり　荷恵つゝひら
ゆしこもしきみこしらあ頭ハ梅こたりしへなり中納言
女乃もしよかうふおとこのこうかになむさかるを
あるあ此をこいよおこせて侍々れえ女のうゝ

津うしきる　赤染氷門
まわれをとつゝぬさ花のさ梅ゆちと海るきこんなき
中納言閑信家乃寄合に恋乃心をよ絶ら　藤原基俊
人ゆまに我ゆ此ゆてあ歌川さ此梅るゝ拝ゆてぬ心
堀川院乃此時百首ゆをわきる時恨の心をよ
澄源法師
うゝみまゝ思れぬ人をかゆゆ遠おりひ出てそかるゆゆ
花園左大臣乃家に侍々る女よまゝ中納言と
中きつこ後拾中にてわゝるを拝くに歳り

なれハ却りひやゝぬえいろむ男山城なるなかなる
袖よりも乃里と雲のくつひつるもし計る

中院右大臣

雨とゝやうてせもまゝて山城の伏ゝ里に新掛山家
かくひゝ伝きれもあやなくこれおとこに
わもゝ涙なむ敵よきるゝなむ
百首乃哥なかきる時無乃前とてよめる

待賢門院堀川

うれ人を志れ世とハ思ひさや家心さへなかなるらん

上西門院兵湯

うかわきる世に契を知ふ中つきハとれて後のこゝハ

前参議親隆

志るなれハ今に枕のおとふらむちゝのこつとる候れ

新しらす

右大臣

とゝかなくとこん世をとゝ〇て契かなこゝあひ知りしを

右を中将忠良

なりひ出よ夕乃雲もなりひかれや頭にあらぬ煙也

左兵衛督隆房

悪なくうられん出よ志るゝに我思ふ人のつきにはまれ

大臣太后宮小侍従

君こゝにとうれぬるを乃さ[illegible]
二条院讃岐
君こゝにあるなれ[illegible]
殷富門院大輔
かたわけしきしきを見てもいきる為れ[illegible]
後恵法師
君やおもふ我力やおもふ[illegible]
家位法師
[illegible]
月前恋といへる[illegible]

[illegible]
乗超法師
[illegible]
恋奇とてよ[illegible]
祐盛法師
[illegible]
菅原隆親
思ひ[illegible]
源有房
[illegible]
惟宗彦言

源仲頼

鴨長明

藤原清輔朝臣

わさ[illegible]

上西門院兵衛

何をんにそこ[illegible]

慈鎮[illegible]

殷富門院大輔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右[illegible]

[illegible]

隨開[illegible]

[illegible]

九月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千載和歌集巻第十六

雜哥上

上東門院とわらせ十賀をこなひ給ひきる
時讃侍ける　法藏寺入道前太政大臣

かつ〻ある〻かゝれせハ奥山乃苔の松とやきをつまくし
上東門院入内乃時の御屏風に松わる家に
笛掛かよわそひ志あるゝ〻ある事哉讃侍ける

大納言師信

笛竹乃聖つゝ家に聖人そ世のなかなる雲風吹やそ掛らむ
一条院の御時皇后宮五節をまゐらせる時展れ

目のしつき十二人なりしに志も御ひ〻すてあ哉
まわをよりむきせられ身わきるに無来といふ
あるひとの乃とけ身わくるをこれむ出るやと
いふ哉きゝて中納言実方朝臣ちまてはく
後あとて
あしひき乃山井の家にこれるをいかなるひとの
とくるなからむと云をきゝ事也事なり讃
侍ける　皇后宮清少納言

うたゝ御わあはにむすへ家元と哉れ寄す日新ゆゑ計そ
十二月計より門とたゝ時てまん御わかしと恨さわ

前参議親隆

[illegible]

月前十首続侍ける時

藤原家基

[illegible]

後惠法師

[illegible]

賀茂成保

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原清輔朝臣

[illegible]

登蓮法師

[illegible]

法印静賢

[illegible]

月乃前おもふ清係なる時いさゝいの月乃
然をよめる

源仲正

たゞかくも我世れ山をを知りしかさらに月を待ける所
見月急故人をとゝめる心我よ絶る

源仲綱

はなゝゐらし人やうゝ海にしまて我も月を遠
百首方をかきる時月乃前とてよめる

侍賢門院堀川

我なく我世後をのこおりに小もかくなく月にまむむかる
從一位藤原家子やまいれとくなりていき

しくまいり係て公卿をなさしなと奏せ
させて侍るようにしけり

左衛院御製

浮雲れるなとくにあるゝ也とかくれなくてそ在明の月
みゝ乃おの山寺に日ころこもりて出係なるあり
つき月れおもしろく係なれはらゆる

仁和寺後入道法親王受性

本れはもろ在明乃月れとくれ独や山の峯をしまし
月れ前とて清係なる　之性法親王

この春と雪に志て後夢也月宮の夜れ春れ去る世

榜中納言長方

あそいはん名所をいとく思ひとやうくまくまゝあの月代
殷富門院にて人々百首の歌侍きる時月
乃前にてよめる　　荻原定家

いかせんさらて哥世ハ顧ひすれとし月も洞落きわ
歌しらす　　荻原家隆

おかの松乃風我為にめて雅の孫兄に月をしるん
八条院六条

まいかともいとく山そなくさ海のとも榜山のあの乃月
法印実修

世我いとふ云ハ月を志るへをやしのこ思ひ入らむ
荻原隆親

さいしさも月見るかとゝ顧ひ入るむ後を海へ有る
寄る夜月といふ心を歌侍る
園位法師

霜さ孫の夜の本れを海ニ為て月見るやとゝふ命
世我乃かれて後西山にすかのことを侍して人々
つゝし計る　　平実重

何なれし宿を生て西へ行く月我志るいくふ心とれ
故郷月をよめる　　後恵法師

春乃梅井に清水みちて月さへ心すゝしく成にけり
江上月といふ心を　藤原家基
さともとのふるさとゝしつきせぬ世にも○と住かはる水よ有の月
賀茂社歌合に月乃前とてよめる
藤原親盛
何となく涙しのそ袖乃ぬれけり椎乃露やそらむ
山家暁露といふ心をよめる
大江公景
万葉よりも宿の露よ夜見えて立明の月をみるかな
山家月といふ心を　静蓮法師

足引乃山のたかねとてもまちてやかゝる夜半の月
月照寒草といふ心をよめる
紀康宗
白露とも小梅とやおもふ霜枯の上葉と照る月影
月照山家といふ心を　法眼長真
西山の落葉やまたかの山下にやとるらん月さへ草に露やおきすす
嵐吹月といふ心を読侍る
藤原為忠朝臣
あつさも秋風のふく嵐の吹はらふ山の月
暮の月といへる心を　覚延法師

山風にまやの乃あれまきあれにけれ枕にやとる雲の帰れ
新しらす　法印慈園

山端のこ雅文かけ海に海竹にて枝にたる芳月と見ゆるし
月新乃入ぬる後(あとイ)にあり山ゆる海にもしやこれ此末の見
松政前右大臣の家に百首に前こませ侍る
時月の前に帰まよりある　後恵法師

世にて六十年はなれぬ後乃月にて乃山路にたゆ知れ
月乃前とよりある　園位法師

こん世にハ元に帰れにおらハさじ何にてやこぬ月にひかり成
二条院乃此時四代まで侍つること我おとひて
読侍きる　皇太后宮大夫俊成

いかなれ志川にあらぬ山をとて代に雲井の月と云
堀川院の此時百首乃前にまわらる時述懐の
心をよめる　藤原基俊

唐国に志つこしにもとりあとくこよまて何もぬ頭と世
僧都光に維摩会に講師に請とまきる
我ゆひくとれにきれハ法性寺入道前太政大臣
に根中きるを志めらのもらと侍ふまれとよ
うれ年もの猶にかれにしかる

でかきつけ侍る　津守京基

みこころあらはなれども住吉の松は葉しきかはらさりけり

吉野の瀧とよめる　中納言經忠

白のしに浦ひやせまし吉野山おちくる瀧は青なりけり

さかれ大覺寺にまうかりてこれかれ寺に見侍る

に演侍る　前大納言公任

瀧乃竜ハ爲にてひさしく成ぬれと名ようなれ行ぬ逢

屏風に瀧落ある所を我よめる

ぬ家にはちる雲の○そらに足成ぬ者の瀧はしらむ　藤原長能

京極御太政大臣布引乃瀧見侍る時よ

侍きる　六条右大臣

あれ乃ゝて白雲と見極る所はさらしむ布引の瀧

竜山寺に通して仙室に書付侍る

あ[illegible]の里て[illegible]る宿[illegible]は[illegible]

おもし龍山乃[illegible]とよめる　能因法師

仙人[illegible]

布引乃瀧とよめる　藤原[illegible]清

青まのにきてしはとれ数なりて名こわもたかなる布川の滝
むろ鳴りをとめる　菅原殿方
あしひき山室のやしほ鳴るいまつさきぬ思ひなからむ
堀川院乃御時百首の奇をわかる時橋の奇
とて演作する　大納言師頼
うつきやまとしてもとてぬ物ゆへよくぬ岩をおけまいる
おなしに時うへのおのことも歌をさくわて奇
川ふすつわかるに鈎無をとわて演作する
檀中納言俊忠
いたれ物をしらなれ世の海の塩漁にかくれまし鈎無

百首乃奇の中に松を演る
修理大夫殿季
玉藻こうつしこ下ろ浦なれ岩根松秀世までにかくれ鐘ぬ
夏草城にあり　源俊頼朝臣
塩みてくは野鴨うさきぬさ極わたれ浪に千風ぬ物ぬ
唐田社乃奇合とて人々演作する時海上眺
あしとしつるまつ見作をする
檀大納言実家
ふ山乃湯を見てはなるをの沖に
檀中納言実宗

たれ海に浪をのたれ風に浪ハ雲ゐ風ハ雲ゐ絶

右衛門督頼実

たるくとおまへ乃沖をこゝ浪をハ雲井に海にあまへ

眺望の心をよめる　園玄法師

あふたかに塩浪たるひ風に浪せて霧にうかふ沖の海

菅原重綱

春霧絵し海にさまをこめ風に浪乃かくとし見えぬ心

和奇満をよこ侍る　祝部宿禰成仲

極くとし見て浪とくしまや海るらむ心をしたれ

和奇の満りな

千載和歌集巻第十七

雑奇中

五十御門かえ乃ゑ又のとしの春鳥羽殿の梅

乃さりわよ此前の花をからんしてとさせ給ふ

しまゝ

鳥羽院御門製

心わたまはいをたへ梅花はの春とも雑ゐ見ゆ

落花の心をとゝ演侍しまゝ

仁和寺法親王覚性

たるゆき我相もとて梅をしまゝ毋ハ雑も心なし梅も

僧都頼実乃すかれて後又の法の春禅定

院の花盛なるを見て讀侍ける

僧正弱花

宿とやと花をむしぬ[illegible]ともぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

讀侍ける

前中納言基長

いかしへ[illegible]

道世乃[illegible]

雲のよ[illegible]

皇太后宮大夫後成

石山に[illegible]

[illegible]

[illegible]

東三條院

[illegible]

山[illegible]

[illegible]

前大納言公任

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌よみ侍りけるに　和泉式部
花さかぬ岩ねにこゆるあとをたづねて思ふ事なし
前大納言公経長谷にこもりて侍りける
ころ申つかはしける　法性寺入道前太政大臣
谷の戸をとぢやはてつる鶯のまつに音せで春もすぎぬる
山寺にこもりて侍りける比はかなき事ありてとひ侍る
きみよ命のあらんかぎりはとひきこえよ
とはんと　道命法師
かくてこそ木の葉ちる山にすみぬることはたえしとは
除目にもれて侍りける時範永がもとに
つかはしける　大江公資
まことに河の川なみ（?）をあさくふかくもしらせてや
寄霧述懐のこころをよめる　源仲正
都にはまたもや春のほとにまた霧のたちてや
世をのがれたる白川の花をみてよめる　円位法師
花をみてふるさとに桜もさくらうしと思ひしも
花の下あまたく侍りける時
花よもさけよかぜもさけよ桜よりさきに思ひあらむ
よ

仰ハ櫻の花をもてさつれ申す後の世を人もしらせたハ
世をそむきて又の後の春花をもてくらせ
　　肥後法師
こゝろ春そ花にいかへ春櫻花もしきたるに花をしらす
　　新しらす
世間をつゝみなき物と思ひすゝいて花の姿をたゞまし
　　文古うつわなりときこゝろをうつ又のちしれも後
　　白川の花さかわよとんなのてゐて花の下に
　　おもしをさて後々　　讀人志らす次
　　叩計夢世の事にいかしく春ハ櫻の花にかゝらん

花さかわよ法滅寺にはいり金堂のまへのもな
の姿をみて讀後なり
　　皇太后文太夫後滅
梅わ分わむしを志ハ櫻むちゐの事をもてのもれ是
　　依花紡客こゝろ心をもつ
　　源定宗朝臣
山櫻花をなりしと思ひすゝ人を後へなり此事の序
　　秀位法師にもしめ後ろ百首の所の中に
　　花の所こゝろ　　藤原定家
ふくまて風をも世をも根まし吉野の奥も花にちり

花乃可とてよめる　源季彦

惜くはおもふまじとしかりけれ世にも花ゆゑ思ひやすらむ

家に桜をとへくとよめる　源師教朝臣

老の世に宿に桜をとへりけれ花をまつ程

高倉院長家の御時檀庵に侍ける人と春後

あくかれ侍ける時賀茂社の前合とて

人々演侍ける　遠懐前とて演侍ける

位山花を侍ける　檀中納言実守

花の上の日にとしは経しけれ

景徳院の御時十五首前をかきる時遠懐の

心をよめる　右兵衛督公行

春日山雲にあらはれとよくなる時の事なれ数なる様を

歌事侍ける　演侍ける

物おもふ心や為にも先あらて夢の世をおもひ出へ

遠懐の前とて演る　後恵法師

数なりて年経ぬる為に夏に世をとしとて思ひきわ

ひとてを為れなくとはなる様と前に老を歌やはせし　弓固法師

いさ我ひとり海をこえてつゝなと歌よみ人
摂政太政大臣家の歌合に述懐の心を
よみ侍る　源師光
思ひて侍る物に身をなして生れけむ世はかなきのみ(さにイ)
つらきめにあふ世にまかせつゝ辞(?)せむ時はなにか
行きかへりつゝ見つらむ
源俊重
いさまさは世の海(?)みつくしも思ひ(?)ぬ磯べの浪にうちよせて
あまのかるもの山さとに住みわたる風を聞かは
きく(?)にあひつる
源俊頼朝臣
春風をみ山にふきよせて海にかくつくる袖かは
山田の庵によきなきあらきちくさを見ければ
橘盛長
ともし火の庵に焼火のあはれなるに立煙や雲となるらむ
堀川院の御時百首の歌たてまつりける時山家の
心をよみ侍る　二条太政大臣肥後
山里の朱(?)かれにたえず人の(?)はなれにこゝにまかせて
長月のつきにこゝろを海(?)にしておもひて
海のもしほ(?)かきみえねとしくさねぬ
人につらしきかな　藤原基俊

法成寺金堂前太政大臣

[illegible]

金堂大納言公任

[illegible]

三条院[illegible]

[illegible]

毎[illegible]

[illegible]

一尺聡子内親王仁和寺に住侍[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

聡子内親王

[illegible]

大納言実家のことに三十六人集をうわ

[illegible]

右大臣のかきて侍らまつさしよかきてをし
つゝまらねく侍わらまつ

大皇太后宮

末風ともよかなよわつめたるものをとかし故の取人とそ
返し

檀大納言実家

こゝろもとよかくとも風をとんるあひに取りしも風なるに
高野にまゐらせく侍ゆらん時山海にて演侍ゆらん

仁和寺法親王守覚

徳ましてせとのうへよりなれや若さへ苦風衣きしかわ
述懐の心我よりん侍ゆらん

なかひくのあるも心もとゝ海わなしいとしやせ見ゆ夢世
大皇とをとり侍きる時望乃光屋といふ宿よ
身のこ侍ゆらん

前大僧正覚忠

屋とわきら光やれ家の苦しけいくよ成の祿いけれ
述懐の方とて演侍ゆらん

大納言宗家

身ゆとをしすこ人や思ふんかさよかりこ道を頼ぬ

右を中将忠言

せしかもや月とれ侍ゆらん演とも夢世をいとふ世御に

二条太皇太后宮別当

寂然法師

吹よする風に枕をうきてんと思ふ今宵の月かな

流されて侍りける所よりのぼりて
後京にのぼりて後日吉の社にまうでゝ
よみて侍りける　　　　　平康頼

思ひきや志賀の浦浪立かへり又あふみとも見んものとは

述懐の歌よみ侍りける時
　　　　　登蓮法師

かくしつゝ世の中をいとひても又住そむくかなしきを
憐りまさるかなしかりける時ぞあらく

　　　　　覚禅法師

思ひ入るのあさかり(る)ける住かの露に(やと)る
世の中をすてゝも我(わ)が思ひとくらなん

　　　　　権僧正永縁

暮とのみ世の中の見ゆるかなしきよりいつとあはれ
まつ尋ねしたりける雲林院なる所にまかりて
ならまくの(ま)つくかきたくつらく

　　　　　良暹法師

世をそむく雲のやどりたてゝ
かしらん　　ともみんかしらぬ

題しらず　　前大僧正覚忠

うき世をは離て入し山里にたれかはすむやなかるとそ思ふ

閑居の静なるといふ心をよみ侍ける

仁和寺法親王守覚

岩そゝく水より外に音せねは心ひとつをすましてそきく

高野にまかりて侍けるに奥院に寂蓮法

師か庵室にまかりてわかれにのそみて

かれにそへてつかはしける

権大納言実国

夜をこめて霧分てこそ思ひしか君をそ見つる草の庵に

梅の比山に帰りて横川乃安楽谷の僧都のもとに

まかりけるに法橋房の障子に書付侍ける

藤原公衡朝臣

おなしさの梅なりけりなかをる袖にわかれてそ墨染の袖

題しらず

法印慈円

おほけなくうき世の民におほふかなわかたつ杣に墨染の袖

寂蓮法師

さひしさに浮世をかへて忍すハひとりの山の下に嵐のせハ

殷富門院大輔

ゆくゝことおもひしらすや暁の袂を露と見つゝにそなく

歎きわびさてもやはてむつれもなき恋にしなぬ命なからん

西行法師

光るつゐ見るは秋こそかなしけれきよこの世の中は
はかなくもこぼるゝ思ひに人めつゝむわなかなかれは

六条院宣旨

筆ぬてとしくをこして

二条太皇太后宮式部

里はみな松の嵐に風そのたえぬ見えずくも底海さらなる

詠しらす

定人法師

大井川ことの世ゝ流まゝとはいくやくと人にいはせてる

病わずて東山なる所にくもきもゆくなりて
てはつゝさ人まんこひく所まくねてもまよ
める

大江公家

鳥辺山君が川ねとも根もそ昔ぬむさすことよまて逢

詠ちまし

法眼意覚

おもひくてしゆ庭のおもきさも桜ねて（よい）おも見わかれなわなわ

賀茂社かん詣合に述懐詠とてよめる

寂蓮法師

世中風まゝうれしきは思ひ志て思ひやくまてや
山寺まくさわぬ物をきに房まてなわさら

入道皇太后宮大夫俊成

わかの浦に塩をかけて藤をさへ海につかなる
こゝろしを養しかれ中納言にかうく哀
うらせおもしくて今ぞ還罪位をとてまゐ
つかまつれきしきあわてたるらしなし
仰をつかうせと仰いてされたれたるみくは
かんしたる

藤原定長朝臣

藤の藤を寄て海の海にひし雲海の海にかゝる
こゝろ道さんれあられいむしれ歴代にもあと
あらはしとなむとまゝの人中納言の

千載和歌集巻第十八

雜哥下

旋哥

堀川院御時百首哥をかゝる時述懐
乃哥よさみくあてよつわきら

源後頼朝臣

白兎河　漸に此君を　日ふまかへわ　思ふらん海を
おかれたる　ゆく方なく　せかれて　底のとく流
なるとは　白ふ此世に　日れりと　思いしてもは
なきれたる　いとて兄れ　なきなる　おてされ女の

おもしろ　いけもの家の　八雲とわ　おこわをわとれ
しろしろ　それなわ後は　百草乃　とれ紫雲をく
ちわくに　風につけて　きこゆまと　ちり紅毎めに
なわ河君　なるまきを浪と　さるなみの　とりもちろ人に
あつらへて　津さなき東に　と海ちとわ　江とまきて
とゝめしと　思ひなりも　津せん園の　難波の海乃
何と聞く　私乃さすに　こ乃ちと我　思ひなりけ
なこわまて　もの人きゝは　もつれ　もわりやせんと
おりへとも　心みもわ夜　うさつる様つる
お聞し　百首奇なまく時乃なりけり

待賢門院堀川

とゝ見ぬ　苔乃むれ木　たちもてく　むれ喜流
しけさに　何れあやめ　ほかしれと　うつぬ月乃
親見ても　明毎にぬり　袖の海に　宮毎の海さ
わまこゆ　あれをとて　と海人を　浪に出さ海
津わ私乃　こ見る所　世なれとも　君にあらを
うゆまもわ　雲を見れて　ほきれ草　ほきれかゝ
住吉江の　雲乃ちと母　たゝくと　梢たゝかに
さゝゆへよ　花の鷲の絵を　毎れじゆ　なくされ浪の
なくさかして　掬れ私の　そ乃かれに　色掬りけて

且すれなり　[illegible]　乃こるやと　老宮風森に
あつぬれと　つきに風に　あらいつ　霜なきにに
おとろへ多　[illegible]　あらくれに　わきれ公さん
[illegible]　なれての君を　とし為乃　[illegible]
なりんこすまほん

旋頭哥

志も津ふきれるんにきれ　ゆきる我任せてこの
かわるゆきるにみかりとのこしきれ朝臣
よつかたしなら　源仲正
あれは他のやへ乃霧を且をきれと君まあるへなをとて

くゆらにちこそあれ
かしらぬ元しまくのつきたし　源俊頼朝臣
ねこそれは面てくゆる霧
それくむかつるまを

百首哥たてまつゆる時猿乃にをとらせる
あつま地乃野鴻濃乃は風にまつるひもゆひしいもか　左京大夫影浦
[illegible]

折句哥

二条院乃此時こいてしきと山梅文字を句れ

上に垂て旅の心を　　源雅重朝臣

駒なつていさ見に捨ひ立岡川白浪にすゝ[illegible]

なるものこゝろ乃又字をとゝみをさて猿乃

心をとゝ給ふ　　仁上法師

何とかゝ[illegible]　　八

物名

さゝこれをよめる　　和泉式部

[illegible]

すゝこれなし　　中納言定頼

[illegible]

かゝさ乃こゝろ　　大貳三位

柳葉ハ[illegible]

あわつ見　　二条大皇太后宮肥後

池をゝわつゝこゝろ川まて水をしたへつゝ岡に高も　　[illegible]

こゝろや　　源俊頼朝臣

わ駒をしたしまゝらやまゝ[illegible]

まゝれやゝ[illegible]

見ゝ山月木乃座さて[illegible]

かゝこのみのゝ[illegible]

[illegible]

刑部卿敦康母

百首哥たてまつりける時

待賢門院堀川

侍ふ人

備前有安

なき山ざとの秋の夕暮

心蓮法師

かなしさや

奈良おほつ森の下葉の

誹諧哥

花のもとにふる雪を

道命法師

あやまちて花のあるじや

卯花をかも

源俊頼朝臣

卯花をしらげをかけし

井手の白浪ぬれやしぬらん

僧都覚源

こぬ人のつれなき袖や

ことしとて

機後郷明法

荷宮基後

[illegible]

猿恋

[illegible]

百首[illegible]

侍賢門院堀川

[illegible]

六波羅蜜寺乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

良喜法師

[illegible]

山寺[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心覚法師

道因法師

安性法師

源俊頼朝臣

赤染衛門

空也上人

千載和歌集巻第十九

釋教所

維摩經十喩世界ハ多ク泡のあとしといふ心

故ニ見ん分きう　前大納言公任

あとに消ぬしにしむしかなしの浮世にめぐる身にはそれ

うきつる雲のことしといふ心

定なきは浮雲にまとそへつゝまてはそれにそ成てぬへなり

三所如来を歌ひ給ふ心故よきせあふ事なり

花山院御製

世間みな佛なりとしまへて　いまは乃ぬとなそれとなる也

法花經茉草喩ハ乃心をよみ給ふなり

僧都源信

大元乃海ハ日本にてもそれ〇とうふ事ハ是ハ海く

堂提といふ寺に結縁の海しきる時龍雲に

まつてぬわきらに人乃りとわとく海〇と

いひぬわらまれも川かたしきなり

清少納言

求めてもうつる蓮の露をとゝ思ふさせにしへ〇ハ

清冷泉流れ時皇后父に一ハ經供養せ

られしかる時壽量ハ乃のあつ海をとゝめる

藤原園房

月影のてらすもすゝしき風を我かたらふ雲ゐのまよはさらなむ

寄月念極楽といふ事をよみ侍ける

堀川入道右大臣

入月を見るとや人の思ふらむ心をかけて西にむかへは

天王寺にまいりて舎利をおかみたてまつりて

つゝてよみ侍ける

瞻西上人

薪つき煙もすみし空なれや岩ねにみちそかなしき

ゆめにまいりて侍ける精舎の前金泥の法

華経書奉りて後の山におさめ奉りける

まつり侍る時思ひやつゝけ侍りしかはかつみて

宋無く侍る　前参議教長朝臣

夏さもしその暁ともえぬる世にこそ清められけれ

かくてまいりて侍る後清山にて見しよりかは

けふのこゝろ忘れまし新宮にて侍るおなし

三十三所をおかみてまいりて侍りける

侍る時よみて在所にて池の中をみてよめる

さりともと　前大僧正覚忠

世を照す仏のしるしありけれはまた有明の月もさやけし

侍るとの観音我見えぬにてまかりて

法花經信解品のしらせをみ侍りて

前大僧正覺忠

ゆかりもなくてまつ梅月末の世を海とひたかしたなるかな

冬乃こゝろ後入道法親王ゆかりにこもりて

侍りしに道をかへ

常盛院御製

淺雪ハ苔のやかさをとうつむとき二無の佛の日や照ぬ世

此題事

仁和寺後入道法親王覺性

照ぬ所ニ無の仏の朝日も淺雪とかもしらせや淺らん

百首所乃中に法文の所の中に普賢歌の

唯此親王不相捨離といへるに

式子内親王

古郷とひとりもなくなりしをとゝろ月の歌こゝろをけ

百首歌とすせ侍きる時法文乃所に五智如

まをとみ侍りしに栗鳥性智如をとみ侍りし

按政前右大臣

人をとふかりの夏の海とひなてさむ是ハ御しらせ

維摩經十喩世所如水中月といへるをとゝ

よめる

文内卿永範

もの見ぬ道にこれをかくる定なるまじ男やあらしやもう月歌

比叡乃山に雲の学徒不和の事出来りて

なかなかに夜もしかりき酒と志ぬれはもやくれはなかりしれ
妻屋原乃山をとらめる

園位法師

鷲乃山月を入ぬとしたる人へ入て見よ海とふ山の月をも
瞻西上人雲居寺の梅原堂に堀河右大臣月
いわくて奇しきかん侍なりよりめる

神祇伯顕仲

いさ見しかな池に鉄ようらひぬれ恋つゝや毒と思ふ身を
大原御乃常啼芽れ山をとらめる

寂超法師

枯もつる袖にいくつはしむかしとそもそれ法なる御名
維摩経十喩世身ハ夏のことしといふ山を
とらめる

菅原資隆朝臣

見る程ハ夏とも夢とも志れ稱ひとしらつゝ思ひ

登蓮法師

鷲とのぬまかりしうかりぬれはるゝ毋をハ夏とみなる
高野にまいりてよみ侍なり

寂蓮法師

暁とる程ハ山にまつ程や苔乃志ゝにも生明れ月
煩悩即菩提れ山に成よめる

よめる

蓮上法師

月の光月の影とそ照しきらくらはれはやとはれ

動叢雨の山を繰る　皇太后宮大夫後成

夏の夜花を洗ひしまし山法乃むしろ雲の雲

満三七日已来六牙白象の山をよめる

中原有安

紛いそくふかれは思ふ無も川のおまわの山の雨

雪明時法と云ふを　中原清重

鶴まつ夏法の山庵よふる雲の雲の花のちるとそ

山階寺乃涅槃會の當かくに遊羅入滅の

昔を思ひよそ待ふ　惠章法師

もち月乃雲うへ住む山かれはれをくらの雲かれ

涅槃御の如抱境中見法色像乃山をよ

める

後秀法師

清くまむ山の花庭我ゝ見ぬかくやうてそうつる過ぬ

大威久不燒といふ山我よめる

寂然法師

燈ゆまさしたなひ東鳥遠山ゆち別かれ

何孫隨經乃山をよめる

平康頼

鳥乃音も浪の音にそがらぬ所なれば法をもけいかなれば
天王寺の御幸の時古寺惣着といつる所
よめる
藤原定長朝臣
世をすく海鵜のむかしにかゝる孫たしめたるもむ時をしそ思ふ
天王寺にまゐりて遺身舎利を礼して
よめる
天台座主明雲
法のかゝぬ海のしの鰹中の櫻にて清の若狩とうらそ
法生御武なる仰ゆる時教化の奇 御仰ゆる
律師永親
みな人を渡さ舟と思ふ所にて極楽に極くさるへなし世れ

千載和歌集巻第二十
神祇奇
後一条院乃御時たしめて春日社に行幸あり
きらに一条院の御時ぞ例をおもひ給ひしいる
させ給ふくらさせ給ふ事なり
上東門院
三笠山さしてまゐるとの祇の神あり御幸の御鑑とかく
長元八年開白左大臣奇合し仰ゆる所
左方のうたへとつこひに住吉に給ふ奇なる
仰ゆるに左乃 [illegible]

大納言經輔

[illegible]

白河法皇熊野へまいらせ給ふ事ありけるに

[illegible]

[illegible]

後二条内大臣

[illegible]

百首奇めしきる時神祇奇とてきらせ給

ふ事あり

道乃[illegible]

[illegible]

菅原清輔朝臣

[illegible]

中納言家成[illegible]

[illegible]

大納言隆季

神代[illegible]

大納言辞[illegible]

の奇合とて[illegible]

[illegible]

右大臣

[illegible]

そ乃ち神感[illegible]

云ゆゑ遂行しく侍ふまつるとな候
おなしき前合に　皇太后宮大夫後成
徒にふりぬる身をも侍者の書はさわともあはれ思ひ
おなし前合に祐頭月をいつゝ山をさみ侍ふ
右大臣
梅わゆきさ松柏いてゝまゝ青もかゝる侍ふ有
後恵法師
侍者の書乃ゆゑよあひ見ひ月をわも月にぬれは霜ハ逢
庶田社乃前合とて人々前をみ侍ふ事ふ時
社頭雪をいつゝ山我ふ見ん侍ふ

權大納言実國
をしなべて雪の書ゆゑ事をてかわいつれ梯乃梢なるむ
有ふ乃ゆゑ悪ひ之ゆ要あるゝ法師を侍
ふるに湯の明神をハ三輪乃明神となむ中侍
ゆゑ柏ゆゑ記付ふく侍ふまつる
按察使資賢
めつらしく此幸を三輪の神なるハ出るゆゑ此湯なる
熊野にまゐしてく侍ふる時数公門のまゐ
あるゝ見侍ふる
檀中納言經原
うれくも神乃ちりひとをまへまてゆとおこすりまつる

三輪の社あらく霞をとめる

僧都範雲

枕ゝ無を霞こむまとと三輪の山神の者しいへ仕給ひ
花人にあらぬと我なかなきて[illegible]かな賀茂社
あまたて御なるを二千三百度にもあまり
きる時貴布祢の社にゆきてとし雜にかな
つゝまゝる

平宮室

今までよなりとしつむ無きふ[illegible]の[illegible]神を[illegible]
かくて後なむ祢なく花人になりけり[illegible]
近場院[illegible]時なり

片思乃たゝふりあらく御をとるを[illegible]社の祢
宜にまたるむと申きる此をみくまなつゝ[illegible]
[illegible]きる

賀茂政平

さりとしとあれとそかくるゆゑ[illegible]片思の神[illegible]
そ乃後なむ祢宜にさかり成りしきる
百首前の中に神祇乃[illegible]ひ[illegible]

式子内親王

けりとしとなのむ[illegible]神さひ[illegible]成ぬ[illegible]
賀茂社の前合とて人をあらめて[illegible]
時速慶の前にまとめ[illegible]

〈本美神百九十六〉